

子房構造論へノ一提案

—ぎぼうし屬ヲ中心トシテノ—

前 川 文 夫

FUMIO MAEKAWA: Carpel-studies of monocotyledoneous genus *Hosta*.

ぎぼうし屬ノ子房ニ就テハ從來他ノゆり科ノ各屬ト共ニ3心皮ヨリ成リ、各心皮ノ兩縁ニ生ゼル胎座ガ中央ニ集ツテ中軸胎座ヲナストサレ 著者モ亦サキニ該屬誌中ニココノ說ヲ採用シタ。然ルニ其後心皮ナルモノノ考察ヲ重ネルニ從ツテ從來ノ心皮並ニ胎座ノ解釋ガ單ニ現在ノ子房ノ形狀ヲ記載シタルニ過ギズ、何等ソノ本來ノ構成並ニソノ發達ヲ解明スルモノニ非ザルコトヲ知ツタ。其ノ他ノ屬種ニ於テモ幾多ノ實例ヲ見出シ再檢討ノ必要トソノ系統上ノ價值ヲ重視スルニ到ツタガソレラニツイテハ別ニ報ズル。*Hosta*ニ於テハ心皮ハ6個ヨリ成ルト考ヘル。SAUNDERSモ亦ゆり科ニ就テ6心皮說ヲ唱ヘテ居ルガソレトモ異ナルモノデアアル。偶々更ニ傍證トナルベキ畸型花ヲ入手シテ確信ヲ得タノデコ、ニ大方ノ御批判ヲ仰ギタイト思フ。本稿ヲ草スルニ當リ以前カラ御指導ト御鞭達トヲ賜ハル中井猛之進先生ニ遙ニ感謝ノ意ヲ捧ゲ、又好材料ノ使用ヲ快ヨク許サレタ保井コノ博士ニ御禮申上ゲル。

觀 察

ぎぼうし屬ノ子房ハ多肉質ノ心皮ヨリ成リ圓柱狀橢圓體或ハ太イ三稜アル圓柱狀橢圓體デアツテ稜・面トモニ外面中肋部(勿論外觀ノ意味デアアル)ニ淺溝ガアル。内部ハ3室ヲナシ各室ハ外花蓋片ニ面スル3方向(第1圖LE)ニ位置スル。室ノ斷面ハ三角形或ハ卵圓形ヲ呈スル。各室間ノ隔壁ハ厚ク中央ノ内花蓋片ニ向フ放射線上ニ極メテ狭イ腔處或ハ空隙(第1圖S)ヲ有スル(SAUNDERSハSeptal glandトイッテ居ル)。コノ腔處ハ從來看過サレテ居タ。胎座ハ子房中央ノ長軸線ヲ中心トシテ6個アツテ集合シ各ト1列ノ倒生卵子ヲ着ケ、2列ツツ一室ニ納マル。卵子ハ多數デアツテ順次ニ重ナリ子房長軸線ニ平行シテ立チ卵柄ハ著シク左右扁壓ノ有翼デアリ(コレガ種子ノ翼トナル)ソノ廣イ面ハ各室ノ放射軸ニ直角ニ位置スル。若イ子房ニアツテハ隔壁ノ接スル壁面即チ内花蓋片ニ對スル面(LI)ハ外花蓋片ニ對スル面ニ比シテ廣ク

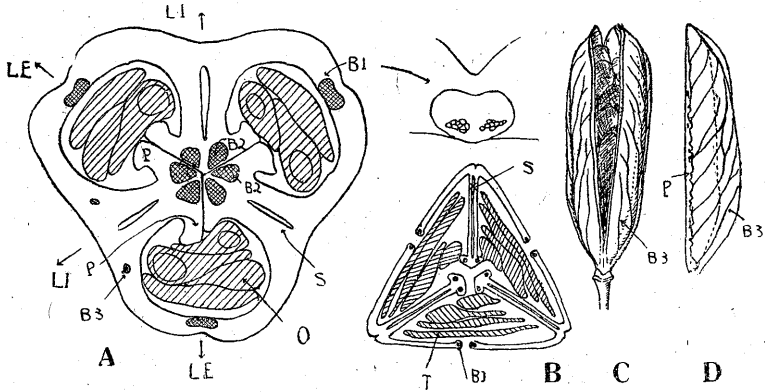


Fig. 1. A. たちぎぼうしノ子房断面 (section of ovary of *Hosta rectifolia*).
 B. おぼぎぼうしノ果實断面 (section of capsule of *Hosta montana*).
 C. 同上ノ胞背裂開 (loculicidal dehiscence of the same).
 D. 同上ノ心皮ノ内面觀 (inner view of a carpel of the same).
 LE. 外花蓋片=向フ面. LI. 内花蓋片=向フ面. B1. 外側稜線部ノ維管束.
 B2. 長軸線ノ維管束. B3. 第二次側脈維管束. O. 卵子. P. 胎座.
 S. 隔壁内ノ腔處 (septal gland). T. 種子.

且ツ平坦ナルモノ多クノ面ヲ平面トシ後者ヲ太イ鈍稜トスル三稜柱狀ヲ呈スルガ受精後ハ發育スルニツレテソノ稜ト面トハソノ位置ヲ顛倒シ、若キトキノ面ハ稜トナリ、ソノ爲ニ隔壁ハイヨイヨ伸ビテ中軸カラ稜線ニ到リ、若キ稜ハ面ニナルタメニ各室ハ逆ニ薄ク壓セラレテ横ニヒロク擴ガツテ居ル(第1圖B)。果實ハ熟スレバ胞背裂開ト共ニ中軸裂開ヲシテ果皮ハ各片ノ中央ニ隔壁ヲ存スル3片トナルガ、種類ニヨツテハ隔壁ノ中央放射線上ニアル腔處ヲ通ジテサラニ胞間裂開的ニ分離ヲモ行ヒ6片トモ成リウル。例ヘバかんざしぎぼうし及ビむらさきぎぼうしノ充分成熟乾燥シタ果皮ニ見ラレル通りデアル。コハ、注意スベキハ隔壁ガソノ腔處ヲ通ジテ薄キ2片トナリ、子房ノ室ヲツクル各片ト共ニ一連ノ切片トナルコトデアル。維管束ニツイテハ主要ナモノガ各室ニツイテ2組アル。一ツハ子房長軸線ニ沿ツテ走ルモノデ2個アリ(第1圖B2)、胎座ヲソノ外面即チ子房ノ室内ニ向ツテ生ジ、同一ノ室内ニアル2胎座ヲ生ズル各維管束間ハ接觸ハシテ居ルガ癒合シテハ居ナイ。相隣ル各室ノ上記維管束間デハソノ境界ガ判ツキリシテ居ル時モアレバ殆ンド密着シテ居ルモノモアル。今1組ハ上記ト室ヲ隔テタ反對側即チ子房ノ稜線部ヲ縦走シテ居ルモノデアルガ(第1圖B1)、横断面デハ屢々扁平トナリ、時ニハ一條

＝見エルガ、多クハ2條ノ維管束ガ極メテ接近シテ並走シソノ外部ヲ他ノ組織ガ取り卷イテ一束ヲナスガ如ク＝見エルモノデ、モトハ2條デアツタト思ハレル。果實ノ胞間裂開＝ハコレラ接近セル2條ノ間デ兩片ニ切斷縱裂シテ分離スルノデアル。

次ニ胎座ヲ有スル維管束カラハ子房隔壁中ヲ通ツテ外方＝向ヒ 20° – 45° ノ角度デ斜メニ上リ、子房各室ノ稜ニアル2者接着セル維管束ニ達スル第二次ノ小ナル維管束ガ7–10條アル(第1圖B3)。コレラハ果實ニナレバ甚ダ顯著デアルガ、ソノ走り方ハ本屬ノ尋常葉ノソレト類似シテ居ル。隔壁部ニ於テハコノ薄イ中ヲ左右ホゞ並ンデ走ツテ居ルコト、又隔壁ト子房壁トノ接着部ニハ縱走スル維管束ガナイコトハ注目ニ値スル。

花柱ハ子房ニ比シテ遙カニ細イ絲狀ヲ呈シ、子房カラノ維管束ガソノ儘夫々入ツテ來テ縱走シ、外部デハ外花蓋片ニ對スル側即チ室ノ稜線ノ延長上ニ微細ナ淺溝ヲ印スル。

心皮構成ニ關スル考察

EICHLER 以來百合科ノ子房構造ニツイテ與ヘテ居タ解釋ハ各々ノ兩緣ニ一列ノ胎座ヲ有スル3心皮ガ對立シテ存シ、兩緣ハ内旋シテ長軸線上ニテ合シ、子房ハ3室ヲ生ジ、又各室ニハ各々2列ノ中軸胎座ガ出來タトシテ居ル。コノ場合ハ子房ノ各室ハ各1葉ノ心皮ヨリ成ルコトトナル。コノ考へ方ハ殆ンド疑ヒヲ入レラレズニ今日迄續イテ居ルガ、僅ニ少數ノ人達ノ反對ガアル。例ヘバ SAUNDERS ノ心皮多形説 (carpel polymorphisum)* デアル。コレニヨレバ百合科ノ通則(ムシロ全被子植物ノ通則トモ云ヘルガ)トシテ雌蕊ハ2輪ノ心皮群ヨリ成リ、内外兩輪共ニ同數ノ心皮ヲ有シソノ各員ハ交互ニ配置スル。外輪ハ不實性デ胎座ナク専ラ子房壁ヲ構成スルガ内輪ハ稔實性デ胎座ヲ有シ子房ノ内部ニアルトキハ隔壁ヲ生ジテソノ隔壁ガ子房中軸線ニ相會スル緣邊部ノ兩側ニ胎座ヲ生ジ胎座ハ各々左右兩室ニ分レテ入ル、從ツテ子房ノ1室ヲナスモノハ不實性ノ外輪心皮1個ト胎座ヲ有スル内輪心皮2個ノ各半分ヅヨリ成ルコトトナル。コノ解釋ハ相當多數ノ種類ニ於テ適當デアルト認メルガ、コレダケデー一切ヲ説明シ去ルコトハ不可能デアリ行過ギデアル。一方古キ説モ亦コレガ正シイ解釋ト思ハレル例モアルノデアル。劃一主義ハ潔癖デアアルガ生物學ニ於テハ簡單ニコレデ律スルコトハ結論ヲ誤ルモノデアル。

* SAUNDERS, E. R. Floral morphology 1, 62–64 (1937).

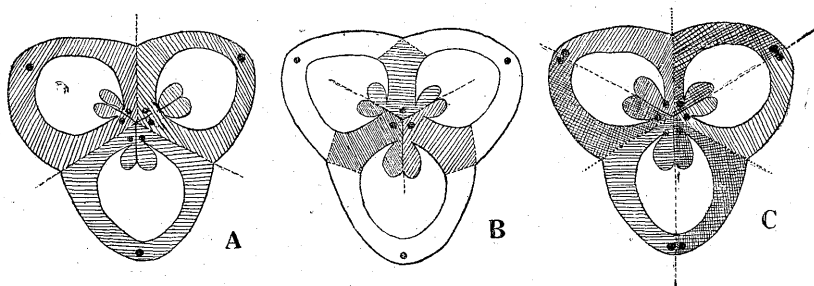


Fig. 2. 百合科ノ子房構成ニ關スル諸説

A. EICHLER ノ説. B. SAUNDERS ノ説. C. 著者ノ新考説 (author's view).
 黒點ハ維管束. 斜線・網目ハ夫々異ナル稔質性ノ心皮ヲ示シ. 白地ハ不稔性ノ心皮ヲ示ス.

私ノコ、デ云ヒタイコトハ次ニ述ベル新ラシイ解釋ヲ以テ從來ノ解釋ノスベテヲ置キ換ヘヤウト云フノデハナク、從來ノ解釋ガ正シク概當スルモノモアレバ、ソレデハ不都合デ多形説ガ適合スルモノモアル。一ツノ實例ニ於テニツ又ハソレ以上ノ解釋ハ不合理デ一解釋シカナイガ別ノ例デハ又別ノ解釋ガ成立シテモヨイ。必竟幾ツカノ起源ト形式ト從ツテ系統ガ兩立或ハ三乃至多立シテモカマハナイガ、有ルガ儘ノ事實ニ即シテ解釋ガ事實ノ數ダケ成立シウルモ妨ゲナイ。寧ロソノ方ガ正シイト主張スルニアル。云ハバ眞ノ意味デノ多源多形説デアル。即チ子房ハ心皮ニヨリ構成サレルトイフ傾向 (tendency) ハ共通デアルガソノ方式ハ多數デアルトイヒタイノデアル。

コ、ハ *Hosta* ニ關シテハ前二説ヲ否定シテ新説ヲ下ダスニ次ノ諸點ヲ論據トスル。

1) 子房ナル器官ハ卵子ヲ保護スルトイフ傾向ヲ同ジクスル點デハ恐ラクスペテノ被子植物デーツデアラウ。シカシソノ傾向ヲ示ス形式ハ種々デアル。即チ構成ノ要員ニツイテモ道程ニツイテモ多分ノ相似 (analogy) ガアル。

2) 子房ノ構成ニアヅカルモノハ主トシテ葉デアル。(葉以外ノモノ例ヘバ莖ノ末端等ニツイテハ別ニ述ベル)。

3) コノ葉ハ元來孢子葉デアアルガ裸葉實葉ノ別ヲ生ジテ居ルモノモアル。

4) 尋常葉ニ明瞭ナ背腹性ヲ持ツタ植物群ノ孢子葉上ノ孢子囊ハスペテソノ形態上ノ裏面 (背軸面) ニ生ズル。コレハ葉ノ縁邊ニ移動スルコトハアルガ表面ニ生ズルコトハナイ。

5) 心皮ガ輪狀ニ排列スルトキハソノ屬スル輪毎ニ交互ノ位置ヲトル。

6) 器官ノ一部分ガ構成後アル時間ヲ經テカラ切斷分離スル時ニハ、器官中ヲ通ヅル主ナル維管束ノ方向ニ對シテ直角ナル面ニヨル場合ハ後生的——例ヘバ花瓣ノ脱落ヤ落葉ノ現象後カラ新タニ離層ガ出來ル——デアルガ、維管束ノ走向ト平行ナル面ニヨル分離ノトキハ先在的分離デアル。即チソノ切斷面ハ器官ノ異ナル構成要員ノ接觸癒合面ニ當ツテ居テ各、別ノ形成層カラ由來シ、器官構成ノ初期ニハ少クモ分離シテ居タガ、ソノ途中デ癒合シ、後ニ至ツテソレガ再ビ分離スルモノデアル。果實ノ胞間裂開 (dehiscencia septicialis) ヤ胞背裂開 (dehiscencia loculicidalis) 等モカ、ル心皮相互間ノ分離面ノ状態ヲ考慮シテ後始メテ意義ガアルノデアツテ簡單ニ心皮ノ中央ガ分離スルナドト解釋スベキデハナイ。

7) 維管束ノ走り方ハソノ本來ノ所屬ノ器官ノ構成要員ノ過去ヲ示シテ居ル。

コレヲ論點トシテ改メテぎぼうしノ子房ノ構成ヲ見ルナラバ次ノ如キコトガ云ヘル。

先ヅ子房ノ稜線ヲ走ル維管束ハ表面1條デアルガ實ハ2條ノ維管束ガ癒合シタ痕跡ヲ殘シテ居ル。コノ2條ノ間隔ハ極メテ狭イガ並走シテ居テソレデモソコヲ通ジテ果時ニ心皮ガ分レルダケノ隔リハアル。コレハ本來別ノ維管束ガ相倚ツタモノト考ヘラレル。又胎座ニ接スル維管束カラ隔壁ヲ經テコノ並走セル維管束ニ向ヒ斜メニ多數ノ第二次維管束ガ流レ込メ居ルガ決シテコレカラ左右ニハ流出シテ居ナイ。子房ノ各室ヲ一實心皮ナリトスルモ、又ソノ外側部ヲ一裸心皮トスルモ、共ニコノ並走セル維管束ヲ以テ中肋トスルコトニナルガ上述ノ第二次維管束ノ走り方ハカ、ル想定ノモトニ於ケルモノノ全ク逆デアツテ、寧ロ縁片ガ鑷合狀ニ接合シタコトヲ明示シテ居ル。同一室内ノ胎座ヲ有スル維管束間ニハ間隙ガアツテコノ兩胎座ハ連絡シタモノデハナイコトモワカル。從ツテコレヲ事實カラ子房室ノ兩側壁ハ少クモ2ヶノ心皮カラ成ルコトハ明ラカデアツテ、上記ノ二説ハ成立タナイ。

隔壁ニハ第二次維管束ガウスイ壁ノ中ヲ腔處ノ兩側ニ分レテ並ンデ居ルコトカラシテ隔壁ハ心皮ノ二ツノ部分ガ背中合せニ成ツテ居リ、途中カラ急ニ直角ニ曲ツテ左右ニ分レルト共ニ子房壁トナツテ居ルコトモワカル。シカモコレヲ第二次ノ維管束ハ極メテ左右整然ト並ンデ居ル。換言スレバ胎座ヲ有スル維管束ノ同處カラ夫々左右ヘ等シイカデ分カレ且ツ走ツテ居ル。隔壁ト子房外側壁トノ連絡部附近ニハ中肋トナルベキ縦走ノ維管束ハナイ。斷面デ間々コレニ類スルモノガ見ラレルガ、ソレハ上記ノ斜走第二次維管束ガ偶

然ソノ附近ヲ通過シタ迄デアル。隔壁ハ種類ニ依ツテハ腔處ヲ通ジテ二分シ、心皮ハ6片トナル事ガアルカラ隔壁ノ長軸線上ニ有スル2個ノ維管束ハ1心皮ニ屬スルモノデハナクテ——即チソレヲ中軸トシテ鳥形ニ兩翼ヲ有シソノ背部ノ一部デ互ヒニ接着スル1心皮デハナクテ——夫々異ナル心皮ニ屬スルモノデアル。從ツテ子房ハ6心皮ノ作ル3室ヨリ成リ、各心皮ハ夫々ソノ兩側ニ維管束ノ各1條ヲ有シ、内側ノ一方ニ胎座ヲ具ヘタモノガ2個ヅ、相對シテ1室ヲ形成スルモノト思ハレル。心皮ガ中肋ヲ有セズ兩縁ニノミ維管束ガアルトイフコトハソノ左右イヅレカノ一半ガ退化ニヨリ喪失シタカ又ハ狹化シテ縁邊ト中肋トノ接着ヲ生ジ、且ツ外方縁ニ於テ胎座ヲモ失フニ到ツタト考ヘナクレバナラナイ。コノ事ハ當然心皮ガ互ヒニ向キヲカヘルコトヲ意味シ、ソノ基部ニ於ケル排列ハ花蓋片ト規則正シク位置スルモ、上部ノ花蓋トノ游離部ニ於テ癒合ノ結果ハ花蓋ニ對シテアル種ノ歪ミヲ來タスコトガ豫期サレ

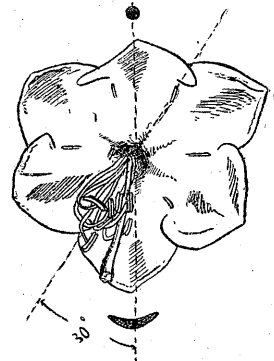


Fig. 3. 花冠ト雌雄蕊ノ相稱面ノズレヲ示ス。(Deviation of floral symmetry of *Hosta*.)

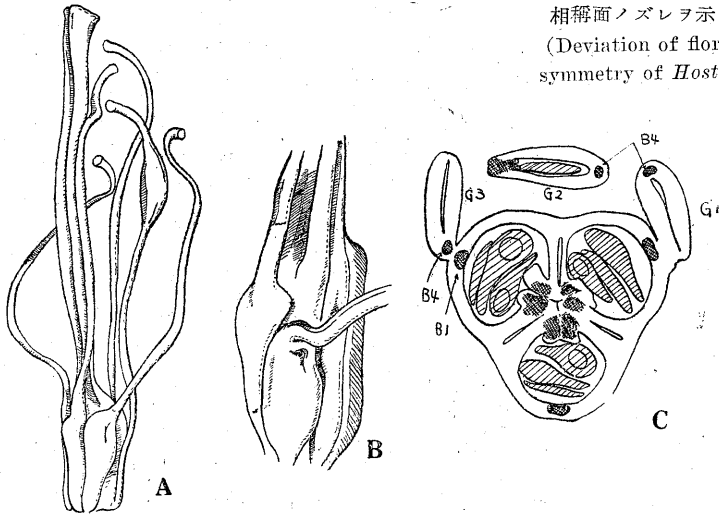


Fig. 4. A-B. やつぶさぎぼうしノ雌雄蕊 (carpellar stamens and pistil of *Hosta lancifolia* f. *carpellata*). C. 同上ノ横斷面. 癒合セル心皮化ノ雄蕊 (G1-3) ヲ示ス. B4 雄蕊ノ維管束 (Cross section of the same).

ル。然ル=實際=於テぎぼうしノ花ハ雌雄蕊先端部ノ屈起=依リ輕度ノ左右相稱ヲ示スノデアルガ、ソノ相稱面ガ花軸ト苞トノナス面並ビ=花蓋ガ本來有スル相稱面=對シテ少シクズレテ居ル事實ガアル。コノ角度ハ測定ガ困難デアルガ 30°-45°ノ範圍=入ル様デアル。理論的=導カレル角度ハ 30°デアルカラコノ歪ミヲ表ハンタモノデアラウ。

サラ=著者ハコノ説明ヲヨク證明スベキ畸形品種ヲ得タ。即チ *Hosta lancifolia* ENGLER var. *Thunbergiana* STEARN f. monstr. *polycarpellata* F. MAEKAWA (やつぶさぎぼうし) デアル。*本品種ノ雄蕊ハ多クノ花デハ全部ガ、少數ノ花デハ1個ノ稍不完全ナル小形ノモノヲ殘シテ他ノ5個ガ心皮化シテ居ル。カ、ル雄蕊デハソノ下部=子房様ノ膨ラミヲ作り上半部ハ花柱様ヲ呈シ頂=ハ柱頭ヲ有スル。真正ノ雌蕊=ハ變化ハナイガ、上記ノ變性雄蕊ハ屢、コノ雌蕊ト種々ノ程度=癒合スル。又子房様ノ膨ラミハ全長ノ中央部=來ルモノモアル。コノ膨ラミハソノ頂部=於テ一側ガ花柱様部ヘ移行スルガ一側ハ稍、凹處ノ如キ組織ノ癒合部ヲ見セテ居ル。内部デハコノ凹處カラ下向=向ツテ花柱様部ヘノ連絡部ト反對側=胎座様ノ部分ガアリ往々=シテ不發育ノ卵子ヲモ見ル。上記ノ花柱様部ヘノ連絡部=ハ維管束ガ1條アリ、コノ變性雄蕊ハコノ維管束ヲ中肋トシテ折り疊ンダ形トナツテ居ル。コレヲ以テ見レバ1心皮ト1雄蕊トハ相同デアル外、心皮ノ胎座様癒合部ノ不自然ハ既=1個ノ心皮ヲ以テハ子房ヲ構成シ難キ迄=分化ノ程度=達シテ居ルコト、完全ナル子

* コノぎぼうしハ保井コノ博士ヲ日光山中デ自生品ヲ採集サレタモノデ偶然畸形品デアッタガ、ソノ固定性ガ強イ。こばぎぼうしノ品種ニシタガ模種=比シテ全體頑丈デアリ葉柄及ビ花莖ノ下部=紫點ヲ布ク。花ハ8月下旬(東京)=上ルガ花冠ノ開舒スルモノハ稀デアル。コノ點朝鮮ノつぼみぎぼうしヲ彷彿タラシメル。雄蕊ガ殆ンド全部雌蕊化シテ居ルコトガ原因デアラウ。花冠ハ淡紫色デソノ着色形式ハすぢぎぼうし=似テ居ル。コノコトハすぢぎぼうしノ系統由來ヲ暗示スル。細筒部ハ太ク且ツ基脚ガ囊狀=膨起スルノハ著シイ。往々夜間=開キ且ツ芳香ガアル。花冠廣筒部ノ透明線ハ顯著。瓣部ハ長クテ筒部ノ合計ヲ超エル。

Hosta lancifolia var. *Thunbergiana* forma monstr. *polycarpellata* F. MAEKAWA, forma nov. (*yatubusa-gibōsi*, nom. nov.)

A typo plantis robustioribus, floribus sæpe non patentibus, collaræ tubo angusto 8-12 mm longo 4,5-5,5 mm lato, crasso basi saccato, tubo dilatato breve 9-11 mm longo, anguste infundivulare, lineis transluscentibus distinctis, lobis collaræ longissimis in alabastro trigonoideis colore affine *H. undulata*, staminibus omnino vel plerumque carpellato-transformantibus oblique dispositis bene distinguenda.

Hab. in montibus Nikkoensibus, legit K. YASUI et floruelunt in Tokyo, Aug. 1943—Typus in Herb. Univ. Imp. Tokyo.)

房ハ從ツテ 2 個以上ノ心皮
ヨリ成ルベキコト、心皮ハ兩
縁ニ胎座ヲ有スルコト、心皮
ノ中肋ノ退化ハ起ラヌコト
等知ルコトガ出來ル。更ニ
興味ノアルコトハ變性雄蕊
ノ心皮ガ示ス方向デアル、本
來ノ雌蕊トノ癒合ニ際シテ
維管束部ヲ以テ接セルモノ
ト胎座部ヲ以テ接セルモノ
トアルガ、ソノ癒合ガ少シク
歪ンデ居ルコトデアル。コレ
ハカ、ル變性雄蕊ノ心皮ガ
基脚ニ於テハ放射線ノ方向
ニ向フガ、游離部ニ於テ交互
ニソノ向キヲカヘテネジレ



Fig. 5. やつぶさぎぼうし (*Hosta lancifolia* f. *polycarpellata*)ノ花盛り。花冠ノ開イタモノニ雌蕊化シタ雄蕊が見エル。ソレヨリ下ニツイタ花 3 個及ビ右ノ花序ノ下方カラ少クトモ 4 個ハイヅレモ既ニ開花日ヲ過ギタモノデアルガ共ニ花冠ガ開カズニ終ツタ。

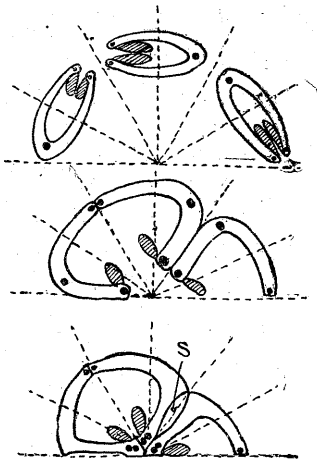


Fig. 6. 心皮ノ癒合ノ進行ヲ示ス模式圖 (Figures showing carpel connation of *Hosta*). S. 隔壁内ノ腔處 (septal gland). 白地ハ心皮。斜面ハ卵子。黒點ハ維管束。

斜メニ成ツテ居ルコトヲ示スモノデアル。スルト心皮ガ 2 個ツ、向ヒ合ツテ斜メニ立ツトイフ上記ノ説明ヲヨク満足センメルモノデゾノ變化ハ更ニ交互ノ心皮ノ外縁部デノ鑷合ト胎座ノ喪失、内縁部デノ隣ノ心皮トノ間ノ背中合セノ接觸、中肋内縁部間ノ葉肉部ノ狹化、中肋ノ子房長軸線附近ヘノ移動ト胎座ノ接近、背面デノ一部ノ癒合ト腔處ノ形成ニヨツ

テ現在ノ子房ガ形成サレタモノデアラウ。

カクノ如キ構造ハ從來ノ廣義ノ百合科、更ニ廣ク百合目中ニ存スルデアラウ。例ヘバ HENSLOW* ガ描イタ *Gladiolus* ノ子房構造ノ如キハカ、ル對立スル3組6枚ノ心皮ガサラニソノ外殻ヲ花蓋片ニ移行スベキ花被葉基部ノ2輪6個ノ部分ニヨツテ固ク取り卷カレテ居ルト解シテ、始メテソノ維管束ノ走向ヲ理解出來ルノdeal。從來ノ百合科及ビ百合目ハ、單ナル子房ノ上位下位ノ如キ現象ニノミ拘泥シテ纏メラレタ多源的ナ群デアツテ、多クノ群ヲ分カツ種々ノ心皮構成法ガアルデアラウシ、中井先生ガ別ノ立場カラヨリ純粹ナ科ニ細分サレタコトヤ佐藤重平氏ガ核型分析ニヨリ達シタモノト原則トシテ一致スルモノガ心皮構成法ノ追求カラモ可能性ヲ示シテ居ル。

結 論

- 1) ぎぼうし屬 (*Hosta*) ノ子房ハ6心皮ヨリ成リ、ソノ2個ヅ、ガ相對シテ1室ヲ構成スル。
- 2) 各心皮ノ子房長軸線ニ近キ一半ハ極メテ狹化或ハ失ハレテ中肋ト胎座ハ近接癒合シテ居ル。
- 3) 心皮ノ一方ノ縁邊ハ他ノ心皮ノ相當部分ト鑷合狀ニ癒合シ、胎座ヲ失ツテ居リ、果實ノ裂開ハコノ線ニ沿ツテ行ハレ胞背裂開ノ形ヲ呈スル。
- 4) 一部ノ種類ニハ猶ホ胞間裂開的ノ裂開ヲモ生ズルガ、コレモ亦心皮間ノ背部ノ癒合線ヲ通ジテノ再裂deal。
- 5) 子房ノ心皮構成法ハ一ツノ群ニツイテハ一ツdealガ、全體トシテハ子房ノ多形ニ應ジテ多様deal。即チ子房ノ心皮構成ハ多源多型deal。而シテ全被子植物ニ於テハソノ多様性ハソノ各群ノ系統史ト平行スルモノデアツテソノ追求ハ科或ハ科ヨリ大ナル分類群ノ位置ヲ決定スルニ役立ツモノト考ヘル。

* HENSLOW, G. On the vascular systems of floral organs and their importance in the interpretation of the morphology of flowers. Journ. Linn. Soc. 28, 151-197, t. 23-32 (1890).